

「Chim ↑ Pom展：ハッピーズプリング」は壮大な実験——結成17年、“原点以前”への回帰。

多様な観客とのコレクティブ（協働）を追求する——それが、日本で最もラディカルなアーティスト・コレクティブ、Chim ↑ Pomが、大個展「ハッピーズプリング」を通じて行っている試みだ。結成から17年間、「社会に対してどう関わるか」の実験を続けてきたChim ↑ Pomが目指すものとは？

BY YAYOI KOJIMA

2022年4月16日

Chim ↑ Pomは「芸術実行犯」。





ピーサマー2005」と名付けました。この展覧会を「ハッピーズプリング」と名付けたのは原点以前への回帰という意味もありますが、さまざまなつらく厳しいことが起こってきた社会の中で、自分たちは17年間、ずっとこのスタンスを貫いてきました。今も社会は一見すると過酷ですが、Chim↑Pomのスタンスは変わりません。アグレッシブに、時にテキトーに、「社会に対してどう関わるか」の実験をしてきた。そのサンプルをさまざまな角度から観てもらう回顧展。そして観て終わりじゃなく、観客にも一緒につくってってもらいたい。それが「道を育てる」プロジェクトです。

「多様な人たちと協働したい」



2005年に東京で結成、日本で最もラディカルなアーティスト・コレクティブと言われるChim ↑ Pom（メンバーは写真左から岡田将孝、エリイ、卯城竜太、稲岡求、水野俊紀、林靖高）。その先進性で国際的に注目を集める。Photo: Makiko Nawa / Courtesy of Mori Art Museum (Chim ↑ Pom)

今は話し合いが二元論になりがちですが、対話をやめてしまえば、喧嘩する者同士の論理2つが弾け続くだけで、思ってもみなかった3つ目の論理は生まれません。プロジェクトをつくる過程も同様で、常に現場の状況や時代の感覚に右往左往しながら変化し続けます。どんなに「こういう作品にする」というアイデアがあったとしても、答えありきではプロジェクトは完成しません。だから「道」にも他者を招きたいし、なるべく自分たちのコントロールを外したい。ハプニングが起きてほしいし、それに対応するくらいが自分たちの役割になれば楽しめると考えています。道が多様な人たちのものになる、ということは、ひいては、美術館が、社会が、この世界が多様な人たちの現場であるということを証明することでもあります。多様な観客の人たちとも協働したいのです。

Text: Yayoi Kojima Editor: Yaka Matsumoto

READ MORE

「自分が幸せになるためには周りを幸せにするしかない」——シンガー、AIが新作『DREAM』を通じて伝えたいこと。

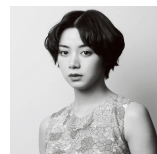
BY KAORI KOMATSU



READ MORE

「子どもの頃から本の虫」——ELAIZA (a.k.a.池田エライザ) が語る、言葉の力。

BY ATSUKO TATSUTA



インタビュー / INTERVIEW

美術館 / MUSEUM

INSPIRE ME

アート / ART

VOGUE RECOMMENDS

PROMOTION

鈴木保奈美が語る、俳優と自身との関係性とは？

AKRIS